



川越市議会議員 無所属

# 松本きみ

活動報告  
令和8年  
春号

## ◇松本きみ公式HP

<https://kimi-matsumoto.com/>



## 喜びの声 子育て支援の会

Tel : 080-6285-5593

Mail : yorokobi@kimi-matsumoto.com



## 松本きみプロフィール

- ◆川越市南大塚在住 ◆昭和55年4月13日生 2児の母 ◆文京学院大学卒 在学中に保育士・幼稚園教諭資格を取得
  - ◆川越市内の南双葉幼稚園に勤務後、市内の保育園にて主任保育士、園長を務める。
  - ◆令和5年4月の川越市議会議員選挙にて当選。現在1期目。川越志政会所属。
- 【所属】小江戸・こども支援推進協議会アドバイザー

令和8年4月発行 第12号

## 日々の活動



南大塚餅つき大会で挨拶させていただきました。たくさん子どもたちや地元の方々、伝統の餅つき踊りを見ながら、お餅の振る舞いを楽しんでいました。



川越市総合卸売市場ウォークソン大会に参加させていただき、地元の方々のお話を伺いながら、市場周辺を歩きました。



ウエスタ川越で開催された二十歳のつどい式典に参列しました。新成人のみなさんには、失敗を恐れず自分の道を切り開いて歩んでほしいと願っております。本市で20歳を迎えられた3430人のみなさま、ご家族、関係者のみなさま、心よりお祝い申し上げます。



市立川越高等学校、大東中学校、武蔵野小学校の卒業式に参加させていただきました。子どもたちの次のステージに向けた式典に参加させていただき毎回、涙、涙です。



私立幼稚園協会、認定こども園協会主催、小江戸地区子育てフォーラムに参加し、教育に関する講義を伺い大変勉強になりました。



農業ふれあいフェスタにて南古谷地区の農家さんたちと子どもたちの食育を大切に、餅つきや体験コーナーなどを企画しお手伝いしました。絵本読み聞かせコーナーでは前職場の先生方にお手伝いいただきました。たくさんの方々、子どもたちの笑顔が見られる素晴らしい会ができました。



ふたご・みつご支援フォーラム in さいたまに来賓として参加させていただきました。大野知事、大宮市長もお越しいただき、実際の多胎児で使用するベビー用品の展示や、体験者の講話、ミーティングランチ会など多胎児についてのお話や、支援についての課題がわかりとても勉強になりました。川越市では、私が一般質問した多胎児支援より多胎児の保育加点が始まりました。まだまだ支援が必要な多胎児家庭の取り組みを頑張っています。

### <改善活動>

通学路になっている畑道で、雨が降ると歩くのが大変で転んで縫った子もいるということで、砂利を敷き安全に通行できるようにいただきました。



## 令和8年第1回定例会（3月定例会）報告・・・議案質疑

『幼保連携型認定こども園の学級の編成等に関する基準を定める条例及び幼稚園型認定こども園等の認定の要件を定める条例の一部改正』において保育人材確保への支援の必要性等の質疑を行いました。

## < 1. 河川敷の有効活用と子どもスポーツの機会について >

### ・一般質問をした理由

幼少期・学童期に身近な場所で自由に体を動かせる環境は生涯にわたる運動習慣の基礎となるものであり、その環境整備は自治体の重要な役割であると考えます。本市においては、2025年3月に『ちふれASエルフィン埼玉』との連携協定が行われるなど女子サッカーをはじめとしたスポーツへの関心が高まっています。こうしたトップレベルのクラブとの連携を契機に、子どもたちのスポーツ意欲が高まる中、その受け皿となる身近な環境が伴っているのか…。しかし、現実には地域の子どもたち、保護者、クラブチームスポーツの指導者から、身近な場所でボール遊びやサッカーができないという声や、予約がなかなか取れないという声が多く寄せられており、スポーツへの意欲があっても、それを支える環境が十分に整っていない状況があると感じています。

Q1 地域の子どもたちや保護者から「身近な場所でボール遊びやサッカーができない」という声が寄せられているが、市はこの状況をどのように認識しているか伺いたい？

A1 公園、広場等のオープンスペースにおけるボール遊びやサッカーに関しては、周辺住民の生活環境保全や他の利用者の安全確保といった点に配慮する必要があるものと認識している。ボール遊びやサッカーに関しては、その様態によっては、防球ネットの設備の整った場所で行っていただく必要があるものと考えている。一方で、スポーツ施設の充実の観点からは、今後、ボール遊びを含む気軽にスポーツに取り組める環境の整備について、立地など様々な側面から検討する必要があるものと考えている。

Q2 児童遊園や都市公園でボール遊びが制限または禁止されている現状が、子どもたちのスポーツ機会に与える影響についてどのように考えているか伺いたい？

A2 子どもたちが日常的に運動やスポーツで身体を動かす機会を設けることは、体力・運動能力の向上、健康的な体の育成、意欲的な心の育成、社会適応能力の発達、状況判断・予測などの認知的能力の発達に良い影響を与えるものと考えている。児童遊園や都市公園でのボール遊びの制限または禁止については、他社への安全確保等の事情があるが、子どもたちが身近な場所で日常的に身体を動かす場を確保することは、スポーツ施策の推進にあたって重要であると認識している。

Q3 市内では十分に活用されていない河川敷があるが、未活用の河川敷の有効活用として、今後、スポーツや子どもの遊び場となる公園として活用を進める方針はあるか伺いたい？

A3 本市は荒川や入間川など広大な河川空間を有しており、これを占用や取得等することにより、通常整備する場合と比較し、用地取得費などの負担軽減が期待されるが、大雨の際には、河川空間本来の機能としてグラウンドが冠水し、復旧に多くの時間と費用を要するなどの課題がある。また、都市計画マスタープランにおいては、「河川機能の維持を図りながら、親水空間のもつ水辺の創出や、河川敷を有効活用するための整備を推進します。」としており、新たな河川敷を利用した公園の整備については、こうした課題や方針を踏まえながら、慎重に検討していく必要があると考えている。

### ・感想

他自治体の事例として熊谷市では、「熊谷荒川緑地」に広大な運動広場を整備し、小中学生を中心に無料でサッカーや野球、ボール遊びを楽しめる環境を整えております。本市にも同じ荒川水系に位置する河川敷があり、高水敷を活用したスポーツ環境整備の可能性が十分あるのではないのでしょうか？洪水時の安全対策を徹底すれば、子どもたちがスポーツを楽しめる場として活用できると感じています。スポーツ関係団体からも強い要望が寄せられているこの河川活用について、前向きな検討をお願いしたいと思います。

## < 2. 小一の壁 Part2 ~更なる推進に向けて~ >

### ・一般質問をした理由

「小一の壁」とは、保育園から小学校の進学に伴い、預かり時間の短縮などにより保護者の就労継続が困難になる問題です。私自身、令和6年3月定例会の一般質問で「学童保育の現状 ~小一の壁~」としてこの問題を本市の最重要子育て支援課題の一つとして取り上げ、保育園と学童の預かり時間が「小一の壁」の核心であることを指摘しました。そして、保護者が安心して働き続けられる環境整備の必要性について提起してきました。市からは、「保護者の就労形態の多様化を踏まえ、一定のニーズはあると認識している」、「今後、保護者のニーズの把握、支援員の確保、働き方を含めた持続的な運営形態について調査研究を進めたい」という前向きな答弁をいただきました。2年が経過し、市ではどのように検討してきたのか、調査を行ったのか、「小一の壁」の解消に向けて、どのように取り組んでいくのかを伺いたく一般質問を行いました。

Q4 2年前に「小一の壁」について一般質問で取り上げた後、市ではどのように検討してきたのか伺いたい？

A4 前回の質問のあと、市としては、「小一の壁」を巡る様々な課題について調査・研究を進めてきた。今年度からは、教育委員会部局と市長部局との間で、定期的実施している会議において議題として取り扱うとともに、学童保育室における閉室時間の延長については、新たに庁内に「川越市学童保育室運営検討委員会」を設け、実施に向けて検討を進めている。朝のこどもの居場所づくりについても、今年度、庁内での検討体制を立ち上げ、取り組んでいる。

Q5 朝のこどもの居場所や学童保育室の閉室時刻に関しては、保護者のニーズ把握が重要と考えるが、市ではニーズ調査を行ったのか伺いたい？

A5 朝のこどもの居場所に関しては、関連する調査として、本年、登校班に関するアンケート調査を一部の小学校で実施している。その中で「朝の小学校の始業前に預かり保育があれば利用したいか」の問いに対し15%の保護者から「利用したい」との回答があった。また、学童保育室の閉室時刻に関しては、昨年末に、学童保育室を利用している児童の保護者に対してお迎えに関するアンケート調査を実施した。その中で、「閉室時刻が午後6時30分以降に延びた場合、延長保育を利用したいか」の問いに対し、39%の保護者から「利用したい」との回答をいただいている。

Q6 「小一の壁」の解消に向けて、どのように取り組んでいくのか。教育長に伺う？

A6 「小一の壁」の解消に向けては、現在、市長部局と連携しながら、早期の実施に向けた課題の整理等を行っている。こどもの小学校入学後も、保護者が安心して働き続けられる環境を整えることは、子育て支援に関する施策として重要であると認識している。また、幼稚園、保育所等と小学校との接続期において、子どもたちの戸惑い・不安・緊張などを丁寧に受け止め、解消に向けた取組を行うことも非常に重要であると考える。教育委員会としては、市長部局と連携し、国や県の動向に注視しつつ、学童保育室の閉室時間の延長などを始めとした放課後児童健全育成事業や、子育て支援に関連する様々な事業を通して「小一の壁」の解消に努めていきたいと考えている。

### ・感想

保護者の働き方が大きく変化している今、子育てと仕事の両立支援は市の重要施策です。本市が子育てしやすい街として選ばれるためにも、「小一の壁」の解消は欠かせません。代表質疑の市長の答弁には、「新年度庁内で、新年の訓示で言及をし、今年度、教育委員会部局、市長部局で会議を重ねている。新年度準備が出来次第開始する」ということでした。教育長は「市長の話した通り年度当初に指示を受けた。話し合いを進めている。学童の時間の延長、早期時間の検討をしている。令和8年度に向けてできるよう準備している」ということでした。検討段階から実行段階へ具体的な形として、市民の方に示していただくことを強く要望いたします。

※一般質問とは、市民の関心事や市政に対する問題を提起し、市長や市政府の担当者に対して回答を求めること。市民の声を反映させる重要な機会。令和8年第1回定例会(3月定例会)の情報は、川越市公式ホームページ→川越市議会からご覧いただけます。